

在宅医療は、医療の人間化を推し進める

飯島克巳[†]

IRYO Vol. 68 No. 11 (537-540) 2014

要旨

在宅医療とは、「通院困難な患者のために、医療者が患者宅を訪問し、適切な診療計画のもとに医療を行うこと」ということができるだろう。しかし、このような通院困難な患者は、医療のみではなく必ず介護や福祉などを必要とするので、正確には「在宅医療と介護」と表現されるべきである。そして医療専門職と介護等の専門職やボランティアのチームによって、実践されるべきものである。在宅医療（広い意味での自宅での医療）は、人々の生活、生き方を支え続ける。また、人々が自分自身の終末を自己決定し、自己選択することを尊重する。このような在宅医療が広がることは、身体的医療に偏りがちだったこれまでの医療を変革する原動力となるだろう。また、医学生や研修医が在宅医療を学ぶことで、医学教育も大きく改革されるはずである。

キーワード 在宅医療、2025年問題、事前指示書、医療の人間化

日本の少子高齢化と2025年問題

日本の高齢化は、世界の最先端を進んでいる。2025年には、団塊の世代（1947-1949年生まれ）が75歳以上の後期高齢者になり、人口の18.1%を占める見込みである。また、国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省、第1回介護施設等の在り方委員会資料4）によれば、65歳以上の高齢者世帯の7割が一人暮らし、もしくは高齢夫婦のみの世帯となる。現在でも、75歳を越えると要支援・要介護になる高齢者の割合が増加するが、85-89歳の年齢層では約半数が要支援・要介護認定を受けている。また医療費

においては、生涯の医療費の約半分を70歳以降に使用しているのである¹⁾。

在宅医療の必要性

生活習慣病、悪性疾患、加齢に伴う整形外科疾患等に罹患し、同時に介護を必要とする高齢者が増加するため、在宅医療が大きな政治的、社会的な喫緊の課題となっている。高齢者への医療・介護の費用は年々増加しており、医療経済の破綻を防ぎ、そして若い世代への負担を軽減するためにも、在宅医療の充実が望まれている。

いいじまクリニック †医師

別刷請求先：飯島克巳 いいじまクリニック 院長 〒330-0052 さいたま市浦和区本太5-40-22

（平成26年4月10日受付、平成26年9月19日）

e-mail: 3223548701@jcom.home.ne.jp

Home Healthcare will Promote the Humanization of Medicine

Katsumi Iijima, Iijima Clinic

（Received Apr. 10, 2014, Accepted Sep. 19, 2014）

Key Words: Home medicine and care, 2025-year problem, advance directives, humanization of medicine as a whole